

バス事業の現状と課題

2023.8.10 西日本鉄道株式会社

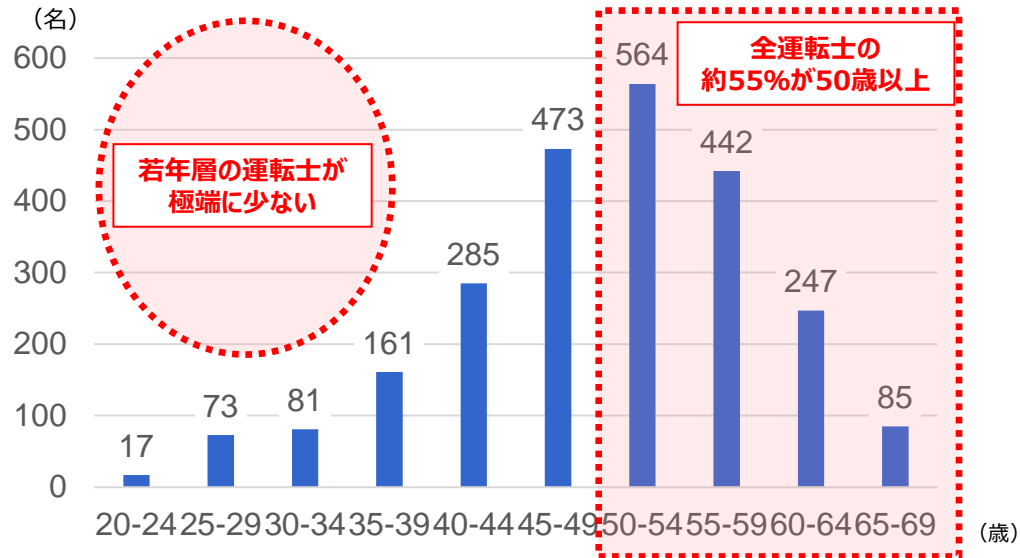


バス事業の課題

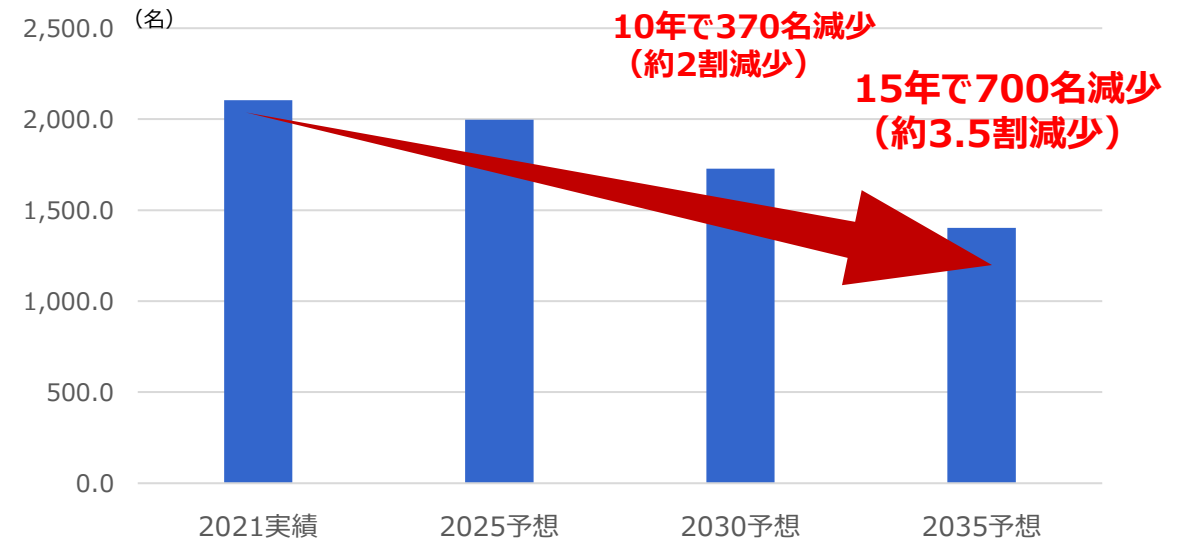
バス事業における最大の課題は、**バス運転士不足**である。

バス運転士の年齢別在籍人数（西鉄本体）

（2023.1時点）



将来的なバス運転士の状況推移（西鉄本体）



- ・全運転士の約55%が50歳以上（ドライバーの高齢化）
- ・年層のクルマ離れが言われ続けている中、ドライバー職への関心度が低下
- ・このままでは、15年後、7割以下となっている

バス運転士へのアンケート

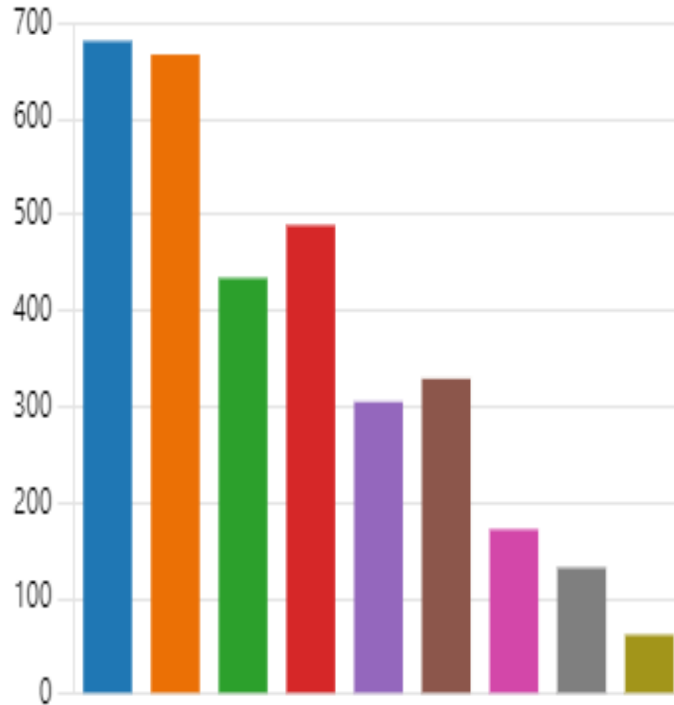
849件回答、回答率43%※西鉄本体営業所対象

<アンケート結果抜粋>

・年齢 20代：21件（2%）、30代：76件（9%）、40代：315件（37%）、
50代：347件（41%）、60歳以上：90件（11%）

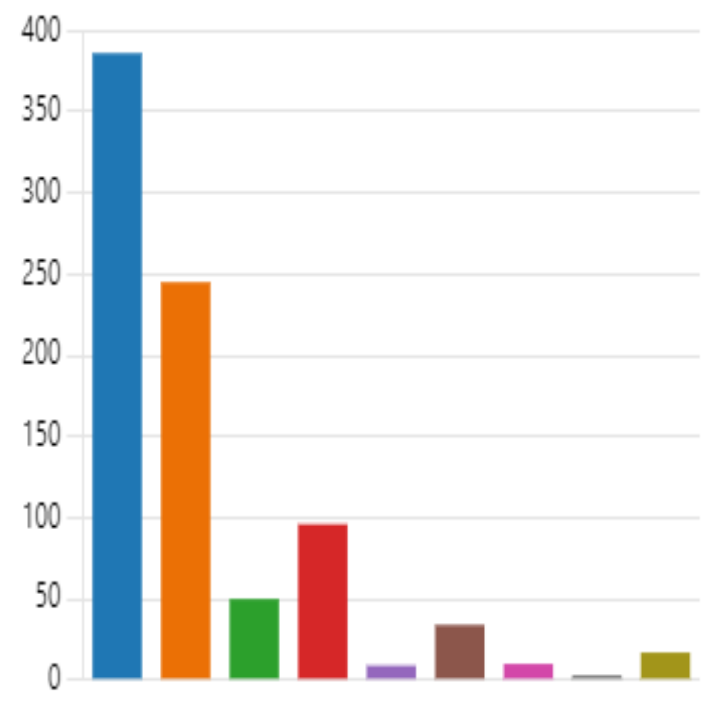
・改善してほしいもの（複数回答）

● 給与関係	681	(80%)
● 拘束時間	667	(79%)
● 乗務時間	434	(51%)
● 休息期間	489	(58%)
● 食事時間	305	(36%)
● 休日出勤	329	(39%)
● 福利厚生	172	(20%)
● 施設関係	132	(16%)
● その他	62	(7%)



・一番改善してほしいもの

● 給与関係	385	(45%)
● 拘束時間	245	(29%)
● 乗務時間	50	(6%)
● 休息期間	96	(11%)
● 食事時間	9	(1%)
● 休日出勤	34	(4%)
● 福利厚生	10	(1%)
● 施設関係	3	(0%)
● その他	17	(2%)



バス運転士へのアンケート（自由意見）

- ・拘束時間は長い、公休出勤は当たり前、退勤～出勤の時間は短い。
- ・拘束時間に見合った給料体系にしてほしい。これでは新しく若い人は入ってこない。
- ・家族を安心して養っていける手取りが欲しいです。
- ・命を預かる仕事であるにもかかわらず**休息、睡眠時間がとれない**
- ・将来のためにも、**働きやすい環境づくり**をお願いします
- ・まじめに仕事をしている人を評価し、質の良い人たちを増やすと自然と**職場の雰囲気**も良くなり、仕事頑張ろう！と思える。
- ・運転士が**会社から大事にされている**と感じない。

人財戦略推進室の設置と主な業務内容

『人材戦略推進室』を設置（2023年4月～）

配置要員は7名（部長1名、課長2名、係長2、係員1名）

①採用強化

- ・採用エリアの拡大（関東・関西地区）
- ・入社祝金、勤続祝金の導入
- ・再入社制度の導入
- ・健康診断基準の見直し
- ・養成自動車運転士の採用対象拡大
（九州・山口の高校～大学生を対象に）

《養成運転士制度》

高校新卒者を採用し、大型二種免許を取得するまでの間、運転以外のバス業務のノウハウを身に着けたのちに運転士として活躍してもらう制度。

※2015年採用開始、これまでの採用人数29名、うち運転士として15名活躍中



人財戦略推進室の設置と主な業務内容

②働き方の改善、待遇見直し

・拘束時間の短縮、勤務間インターバルの確保（2024年問題対応）

・多様な働き方の提案（短時間勤務導入）

定年延長（60歳⇒65歳）、再雇用期間の延長（70歳⇒73歳）
産休・育休制度の積極的な活用、育児支援ダイヤ導入

・賃金制度の見直し

給与・賞与制度改定、諸手当見直し

・仕事のやりがい醸成

テレビ番組出演・出張授業、地域イベントへの参加

・ES向上、健康経営

制服・靴の変更、制帽の着用自由化、食事環境の整備

育休取得実績（男性運転士のみ）

	取得人数	平均取得日数
2020	9人	155日
2021	9人	138日
2022	14人	126日



バリアフリー教室

今後のバス事業に必要なこと

交通事業者間の連携強化

① 他モードとの連携

- ・乗り継ぎを活用することで運行の重複（ムダ）を避ける
- ・資産の共同活用
- ・モードを超えた共通運賃、乗車券の導入
- ・ダイヤ・運賃などの運行情報の一元化

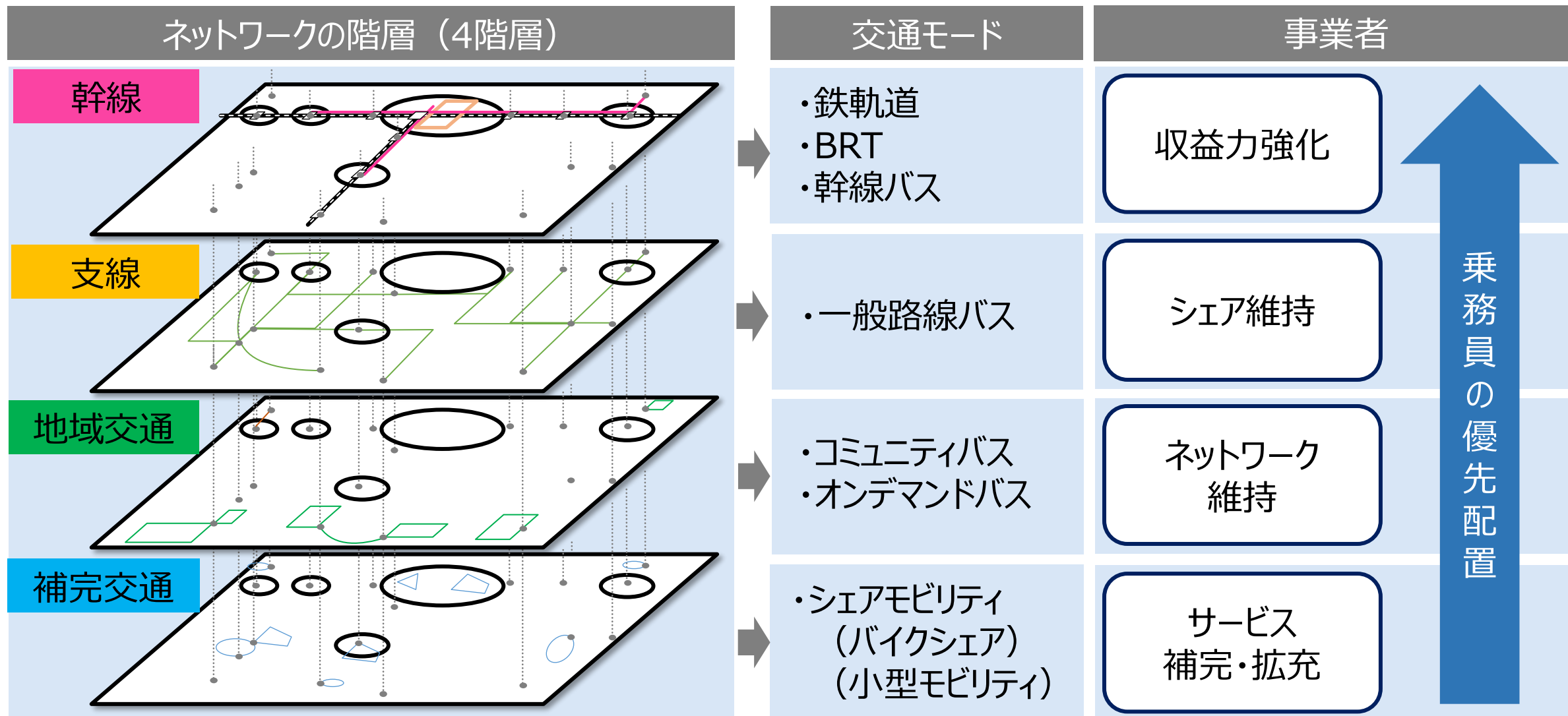
② 最適化されたモビリティの創造

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 鉄道とバス | 連節バス |
| バスとタクシー | AIオンデマンドバス |
| タクシーと徒歩 | スモールモビリティ
(レンタサイクル、電動キックボード) |



AI活用型オンデマンドバス「のるーと」

【参考】これからのモビリティのあるべき姿



今後のバス事業に必要なこと（キーワード）

オンデマンドバス



安全・安心



キャッシュレス



自動運転



MaaS



カーボンニュートラル



【参考】「MaaS九州」構想

交通経路検索、予約決済アプリ

「九州MaaS」

来夏にも提供へ

2023.6.1 西日本新聞

九州・沖縄、山口の各県知事や経済団体でつくる九州地域戦略会議は31日、複数の交通手段の経路検索や予約、決済などを一括して行えるサービス、MaaS（マース）の九州版アプリ「九州MaaS」を、来年夏ごろまでに提供開始する方針を決めた。沖縄県名護市で開いた会合で承認した九州MaaSブランドデザインに盛り込んだ。

鉄道やバス、航空機、船舶などの公共交通のほか、観光サービスや宿泊施設などでも一つのアプリで利用できるようにすることを目指す。現在は各県でMaaSに取り組んでいるが、広域化でさらなる利便性の向上や観光振興につなげる。

来年4月に官民の協議会を設立して事業を実施する計画。戦略会議の倉富純男共同議長（九州経済連合会会長）は「生活の足のほか観光、医療など目的に応じて人が動けるような場をつくりたい」と話した。

（泉修平）

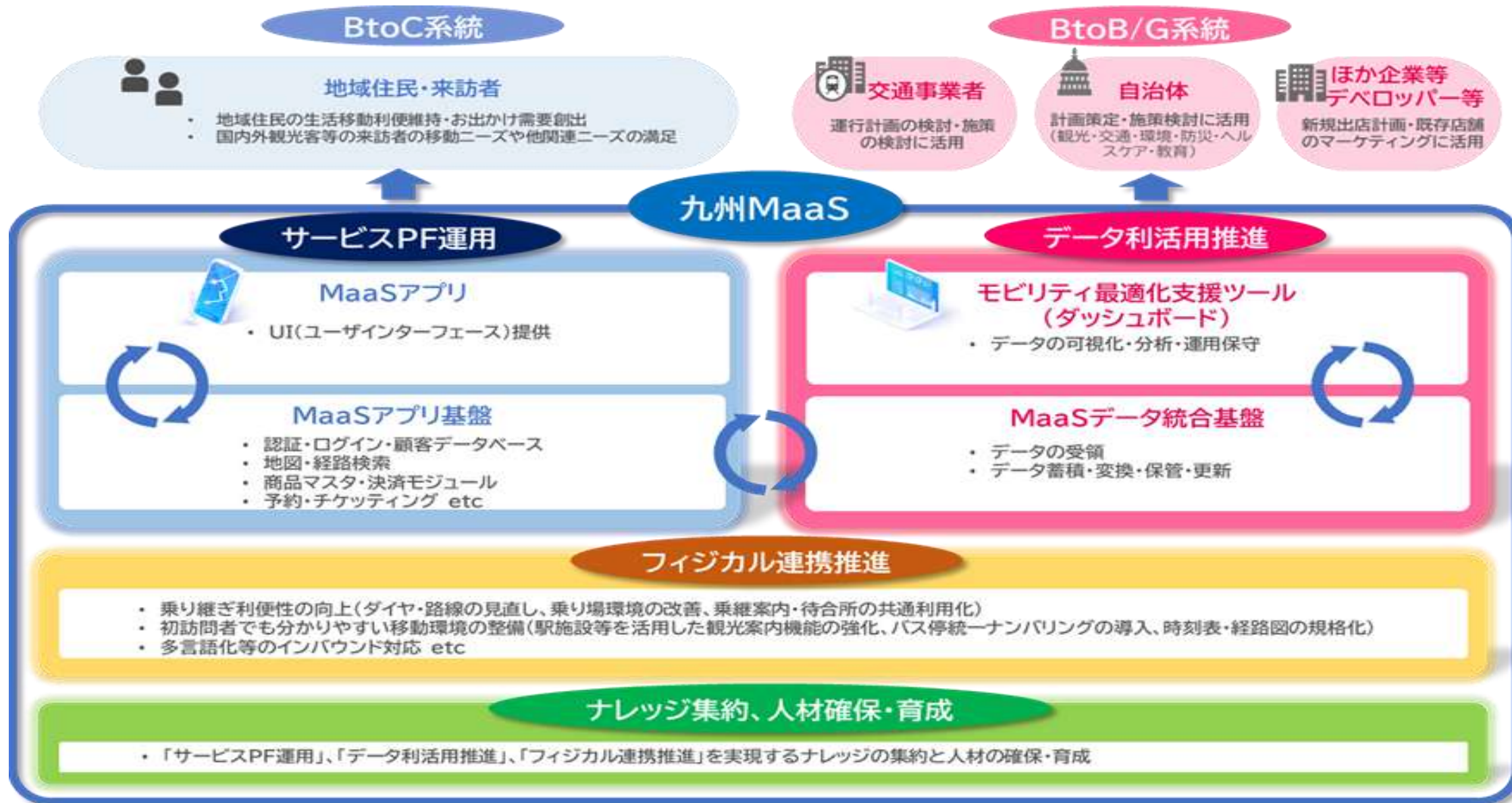
九州地域戦略戦略会議にて

「サービスとしての移動手段」MaaSを九州全域で展開する方針を決定

- ・九州の交通事業者・観光サービスの連携促進
- ・広域化することで利便性向上、観光振興につなげる
- ・移動データの把握、公共交通の効率性を把握、官民で下支え

**Kyushu
MaaS
Grand
Design
卍**
九州MaaSプロジェクト
研究会事務局
KYUSHU

【参考】「九州MaaS」の全体像



【参考】「九州MaaS」に必要な機能・施策

① 公共交通の利用促進

- ✓ ボードレス・最適な経路検索・予約・決済・[事業者間]精算
- ✓ 観光施設や宿泊施設等と経路検索との連動
- ✓ デジタルチケット造成(インバウンドの利用も想定)・利用状況分析

② 情報発信

- ✓ 交通機関の遅れ・運休・混雑情報等の発信、代替ルート検索
- ✓ お出かけ情報や授乳室・バリアフリー設備等の情報

定期券のオンライン発券も検討

③ 移動環境の整備

- ✓ 乗り継ぎ利便性向上(ダイヤ・路線の見直し、乗継の待合所改善等)
- ✓ 二次交通の新規導入(AIオンデマンドバス・シェアモビリティ等)
- ✓ インバウンド対応(多言語化等)、手ぶら観光(手荷物輸送)

④ 地域消費の拡大

- ✓ 地域間・事業者間の連携による宿泊日数や消費単価の向上に資するサービス

⑤ 他分野等との連携等

- ✓ データ(乗降等)利活用
- ✓ 防災・エネルギー・貨物・医療等との連携

アプリ



フィジカル
施策

ご清聴ありがとうございました。